



おおみや トピックス



	年齢	R2.4末(前月比)
大宮町の人口	0歳～14歳	1,304人(-1)
	15歳～64歳	5,754人(+5)
	65歳～	3,041人(+3)
	合計	10,099人(+7)

大宮第一小学校心を一つに『笑顔の千羽づる』制作

新型コロナウイルスの影響で、市内の小中学校は5月20日まで臨時休校となりました。大宮第一小学校では、「当たり前の日常が戻ってくるように。」という願いを込めて、千羽鶴を制作されました。長い間授業や児童会活動ができない中、同小学校児童会では「このような状況下だからこそ自分たちにできることは何か」と考え、今回の取り組みを行う決断をしたそうです。

5月22日、全校生徒に1人当たり2枚の折り紙を、取り組みに対する思いや、鶴の折り方が記載された児童会だよりと共に配布し、5月25日に折り鶴を回収、同日中に6年生72人が協力し折り鶴を結びました。折り鶴は約1,300羽(6月2日現在)回収されました。折り鶴1羽1羽には「コロナに負けるな」「予防をしよう」「早く遊びに行きたい」等、新型コロナウイルスに関連するメッセージが記述されており、早期終息を祈願しています。

発案者の同児童会副会長の高田さんは「私一人の思いからみんなに広がり、全校生徒や保護者、地域の方など多くの方が賛同し、参加してくれました。完成した千羽鶴を見た時、とても綺麗だなという気持ちと同時に達成感を感じることができました。これを見た人みんなが笑顔で前向きな気持ちになってくれたら、制作に協力してくれた全員が笑顔になってくれたら私は嬉しいです。ご協力ありがとうございました。」と話されていました。

『笑顔の千羽づる』は市に寄贈され、現在大宮庁舎正面玄関に展示しています。是非ご覧ください。さらに、来庁者にも折り鶴を制作してほしいという児童会からの要望により、千羽鶴付近に折り紙、回収箱を設置しています。大宮庁舎に来庁の際は、みなさんのご協力をお願いいたします。



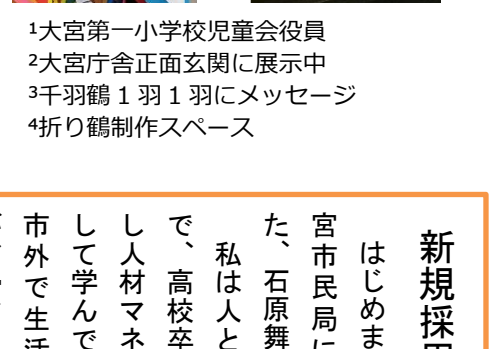
1



2



3



4

- 1大宮第一小学校児童会役員
- 2大宮庁舎正面玄関に展示中
- 3千羽鶴1羽1羽にメッセージ
- 4折り鶴制作スペース

新規採用職員の紹介

はじめまして。4月から大宮市民局に配属になりました、石原舞衣です。

私は人と関わることが好きで、高校卒業後は大学に進学し人材マネジメントを専門として学んでいました。その後市外で生活をしていましたが、帰省をする度に生まれ育った京丹後市に戻って生活したいと思うようになり、3年前に戻ってきました。一度京丹後を離れて生活してみると、『自然』『人』などといった京丹後の素晴らしいところを再認識することができました。

私は窓口を担当しますので、地域の皆さまのお役に立てるようこれまでの経験を活かしつつ、勉強しながら一杯頑張ります。みなさん、どうぞよろしくお願ひいたします。



三重・森本里力再生協議会×龍谷大学

『ゲンゴロウ郷の米』で学生を支援

5月26日、三重・森本里力再生協議会役員が集まり、地域と大学の連携事業に参加している学生の食生活支援を目的に「ゲンゴロウ郷の米」を学生に送る取り組みを行いました。

同協議会は、平成27年より龍

谷大学政策学部と連携し、「里山が持つ多面的な機能を再評価、活用による地域づくり」をテーマに年間5回程度の地域活動を行っています。しかし、今年度の活動は新型コロナウイルスの影響により不透明な

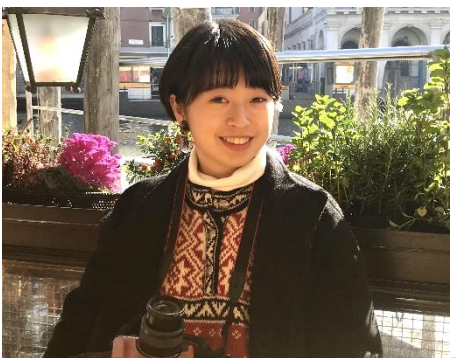
状況となっています。そのような状況の中で昨年度収穫され

た、初めて無肥料・無農薬栽培に挑戦した「ゲンゴロウ郷の米」150kgを手作業で30袋に分け、応援メッセージと共に発送されました。

同協議会の方々は、「これまで地域と学生をつないできたお米で学生の食生活を支援したい。そして秋以降、元気な姿で地域活動が再開できることを願っています。」と話されていました。

ゲンゴロウ郷の米とは？

絶滅危惧種に指定されている汚染されていない綺麗な水中でしか生息しないゲンゴロウが発見された水田で作られたお米。



龍谷大学大学院政策学研究科2年生

カナモト

金本 さくらさん

輝く人

～大宮町から～

今回紹介するのは、三重・森本里力再生協議会×龍谷大学の活動に参加して今年で6年目となる金本さんです。金本さんは『人と自然の共生と、地域を再生する』という目標に惹かれ三重・森本地域での活動参加を決断。地域と共に歩んだ6年間についてお話をいただきました。

●三重・森本地域について

初めて地域を訪れたとき、

葉っぱが青々としていて、一面緑に囲まれて気持ちよかったです。緊張したけれど地域の方々が暖かく迎えてくれて嬉しかったのを覚えています。

活動当初は「学ぶ場所」という意識が強かったのですが、沢山の活動を通して地域住民と関わったことで、今では自分たちを受け入れてくれ、自分を成長させてくれた地域に対する感謝の気持ちと同時に「好きな場所だから何かできることをしたい。」という気持ちが強くなりました。

●活動中の1番の思い出は？

一番と言われると難しいですが：活動に参加して2年目の最初に「さくらちゃん、今年も来てくれたんやね！」と迎えてくれたことが、すごく嬉しかったのを覚えています。その思い出があるからこそ、6年目に突入したのかなと思います（笑）

●活動中の苦難は？

地域側の気持ちと、学生側の気持ちですれ違いになっているのでは!？ともどかしさを感じることもありました。

●今後の活動について

地域の子ども達との生き物調査や、昨年度のサロンのような、これまで関わっていなかった方達とも関わりを築きたいと思っています。そしてもっと沢山の人を地域活動に巻き込んでいきたいと思っています。

●地域の皆さんへ

平成27年から地域と大学の連携が始まって5年間、まわぐるわ三重・森本の軽トラ朝市の開催やゲンゴロウ郷の米の生産など、地域の中で一步一步変化があったと思います。6年目となる今年度も、地域の方に「いいね!」と言ってもらえるよう、新しい一歩を踏み出せられるように、これからも私たちと一緒に頑張りましょう!